

令和4年度健康くまもと21推進会議 第2回食の安全安心・食育部会  
議事録

- 開催日時 令和5年2月20日(月)午後2時から午後3時55分  
開催方法 チームスによるオンライン開催  
出席委員 10名(五十音順・敬称略)  
岸知子、中村好郎、中川浩徳、長濱一弘、平川恵子、藤高ちよ、三浦勲、三浦弘文、  
守田真里子、山田浩一  
※6名欠席(岡崎淳司、高岡辰夫、東野裕子、永田智恵子、平山明香、牧尾幸美)
- 次第 1 開会  
2 挨拶  
3 議事  
議題 1 次期熊本市食の安全安心・食育推進計画の策定について  
1-1 次期計画策定のスケジュールについて  
1-2 健康づくりに関する市民アンケート調査について  
4 閉会

議事(要旨)

【議事進行】部会長 長濱委員

《事務局》

○議題1-1次期計画策定のスケジュールについて 資料説明

《部会長》

次期計画策定のスケジュールについての御意見等をお願いしたい。

(趣旨について)

《守田委員》

冊子が分厚くなって1冊になるイメージで間違いないか。健康増進計画の下に、食の安全安心・食育推進計画と、歯科保健計画が来るわけではなく、ただ1冊にまとめるということか。

《健康づくり推進課》

そのとおり。現在3計画の中で似たようなところがあるため、そのような点は省く。

(計画期間について)

《中川委員》

国の食育推進計画は、もう4次は示されているのか。それを基に作成するのか。

《健康づくり推進課》

そのとおり。

《部会長》

第4次、第5次の食の安全安心食育推進計画の中間評価については、まだ示されていないが、それはまだこれ

からということか。

《健康づくり推進課》

そのとおり。ここは今後内部で更に検討させていただきたいと思っている。現時点では6年間という計画期間で策定したいと思っている。

その表の一番下、健康くまもと21基本計画は12年間というスパンになっている。この同じ計画の中で、一方は12年間、一方は6年間という、ちょっとちぐはぐな感じもあるので、そこは庁内で更に精査させていただきたい。

《部会長》

4次から5次に移ると中間という感じでもないので、下の21基本計画のほうも、令和9年とか令和15年に中間評価を加えるというイメージのほうが、それぞれが進行しているのを同時期にチェックがかけられるのではないかと。今後また、練っていかれるということなので、よろしくお願いします。

(「計画策定」体制について)

《部会長》

計画策定委員会の委員の選出はいつ頃を予定されているのか。

《健康づくり推進課》

選定は4月位を予定している。他の部会とも調整し部会長、会長に御相談しながら進めたい。

《部会長》

複数の部会に参加されている方は優先的に策定委員に選出されるのか。

《健康づくり推進課》

委員の皆様にも、あまり負担が偏らないように選出する。

(会議スケジュールについて)

《守田委員》

市民アンケートの結果が、計画策定に生かされるということか。

《健康づくり推進課》

アンケートの速報値が7月の下旬ぐらいには判明するので、それを第3次の評価及び計画策定に生かす。

《事務局》

○議題1—2健康づくりに関する市民アンケートについて 資料説明

《部会長》

ただいま事務局の説明について、御意見御質問等をお願いしたい。

《三浦弘文委員》

11頁 追加検討「環境に配慮した農林水産物・食品を選んでいますか。」の設問がピンとこないが説明をしていただきたい。

《健康づくり推進課》

例えば、温室効果ガスの排出を削減するため、フードマイレージの少ない、地産地消での農林水産物の購入や、必要以上に化学的な農薬や肥料などを使った商品の購入を控えるという内容。持続可能な食を支える食育の推進が、第4次の国の食育推進基本計画の中でも、「環境との調和」として前面に出されており、その点も考慮して、新たにこの設問を入れたい。

《三浦弘文委員》

消費者がラベルの内容等を確認とかするかしないかということか。

《健康づくり推進課》

ラベルを確認し、原産国を確認することも必要となる。ラベル等を確認することによって、より環境負荷の少ない、地域でとれたものを購入する消費者を増やすためにというような意図もある。

《岸委員》

「環境に配慮した」という設問に対して説明書きがあった方が良い。農林水産省のアンケートの設問と同じような説明書きを入れて欲しい。

《健康づくり推進課》

わかりやすい設問となるように工夫する。

《部会長》

地産地消の推進というと、今、御質問にあった内容と、少し意味が違うと思う。地産地消とは単純に地元のものを食べましょうということと思うが、それは例えば地元の生産者のためにもなるのかもしれないが、SDGs的なところで考えると、持続可能性にもっと大きな意味がある。

それが三浦委員の質問の、地産地消が環境に配慮したということと連動させると、何で地産地消が必要かと質問が出た時に、それが環境に配慮したということになると、後の設問に答えやすくなると思う。

地産地消がどういう役割をしているかをアンケートの中に入れておくと、地産地消の認識がグローバルにSDGsに貢献する、その環境配慮のお手伝いをするということになるという認識ができる。

私も今まであまりそういう考えはなかったが、今説明を聞いて環境に配慮したという言葉と地産地消という言葉が繋がった。

設問44の前に、「地産地消というのは環境に配慮した取組として期待されているが、あなたは、地産地消の推進のため・・・」とすると、つながりやすい。

《三浦弘文委員》

地産地消は、ベースのスタンスだと思う。農業従事者を守り、もともとの基幹産業の育成に大きな意義があると思う。また、日本の食料自給率の低さについてもこのアンケートの中で意識づけが出来たらと思う。

また農薬についてコメントもあったが、その辺も少し心配な部分があり、注意喚起ができれば良い。

《部会長》

結局、海外の農作物に対して、国産のものを買うことが地産地消という、そのニュアンスで良いのか。

《健康づくり推進課》

「地産地消」は、環境以外にも色んなメリットがある。環境はその一部である。

《守田委員》

地元の生産者の顔が見える地元産物、次は県内、そして日本の産物。

《部会長》

小さいところから考えていくとそうなるが、逆にSDGsみたいな話からいくと外側から入ってくる。特に、農産物に限らず畜産物が、今大変な目に遭っている。そう考えると難しい。

環境に配慮した説明及び地産地消の説明を記載すると、アンケートというより市民への啓発にもつながるから、ここはしっかり工夫して欲しい。

《健康づくり推進課》

設問44番の部分と含めて、ストーリーがつながるような説明になるよう修正を検討する。

《守田委員》

是非、キーワードとして「持続可能な社会を支える食」という部分は残していただきたい。意図が一般市民にわかるようにお願いしたい。

《部会長》

11頁 変更 「あなたが熊本らしさを感じる料理や食品は何ですか。」と書かれているが、「食品」より「食材」の方が良いのではないか。

この食品とは、上の追加検討項目の農林水産物・食品の、食品と同列に書かれているのか。食品は加工された食品。地産地消となると、食材と言った方が、近いと思う。その場合、追加検討の農林水産物・食品も農林水産物・食材とした方が良いのではないか。

《岸委員》

食材と食品は同じ意味で使っている。食材はあまり使わない。食品という言葉を使う。

《守田委員》

家庭科では、「六つの基礎食品群」という。地産地消の場合は、食材がピンとくる。

《健康づくり推進課》

追加検討の2題の設問は、国の調査の文言をそのまま採用している。

先ほど、岸委員が言われた「環境に配慮した」という設問に関しては、「農薬や化学肥料に頼らず、生産、食品、そして、農薬や化学肥料に頼らず生産された有機農産物や、過剰包装でなく、ごみが少ない商品など環境への負荷をなるべく低減した農林水産物・食品」という説明が記載してある。

《三浦弘文委員》

農林水産物という言葉は、イコール食材ではないかなと思う。食品という言葉は、すぐ口に入れることができるもの、自分なりに考えた。いかがか。

《岸委員》

「食品」と「食材」の定義を確認して、使用したらいかがか。

《部会長》

環境に配慮したという形容詞が前にあり説明しているものは多分ないので、そうすると国の設問をそのまま使わざるを得ないのかもしれない。

ただ冒頭で、三浦委員が言われたように、環境に配慮した意味はやはり国の資料からでも持ってきて、地産地消も含めた説明があると、読まれた人たちがアンケートに答えやすいと思う。「料理や食品」または「料理や食材」のどちらが適切かも併せて考えて欲しい。頭にすんなり入って、すぐ回答できるような設問が良いので検討して欲しい。

《部会長》

10頁 一番上の追加検討 この身長、体重聞くことは、重要であると思うが、中高生等から正確なデータが収集できるか。アンケートの中で身長、体重が何か重要なウエイトを占める部分というのがあるのか。

《健康づくり推進課》

削除の⑪は、65歳以上のBMI20以下の低栄養の割合を確認するために実施していた。現在は、20歳代女性等、若い世代のやせの問題もクローズアップされている。その把握も行いたい。また体格別に、設問33 主食・主菜・副菜を組み合わせた食生活の実施や、設問12「食育」に関心があるかどうかとの関連性等も把握したい。

アンケートは無記名であるので、正直に記載して欲しい。

《部会長》

どこまで信用できるかは押さえてから実施しないと、凄く曲解したところに着地してしまう。出てきた結果の検証は必要であると思う。

《藤高委員》

身長・体重に関しては、子供たちの保護者は回答されるのかもしれない。なかなか難しい問題はあるのかと思う。クロス集計をされるとのであれば、やはりそこはきちんとした回答が必要と思う。

《守田委員》

10頁 削除② 65歳以上の6か月で2kg以上の体重減少がありましたかは、なぜ削除になったのか。

《健康づくり推進課》

第3次の計画の検証指標に必要な設問ではない。フレイル等の割合は、高齢部門等が把握している数値もあるので削除している。身長・体重の確認で、BMI20以下を把握し、2~3kg以上の体重減少は削除する。

《岸委員》

回答率は50%を目標にということであるが、回収率を上げるための工夫で考えていることがあれば教えて欲しい。

地区毎の回収率に違いがあったかどうか、過去の状況を教えて欲しい。

《健康づくり推進課》

前回の回収率が44%、その前が49%。今回からは国勢調査と同じように、ウェブによる回答も受け付ける。国勢調査もウェブと紙回答が、ほぼ半数ぐらいの状況。そのような工夫も行いながら回収率の低下に歯止めをかけたい。これは検討段階ではあるが、当課で健康ポイント事業を実施しており、アンケートに協力いただいた方にはポイント付与する仕組みも構築しているので、それも活用したいと考えている。

回収率の地域差については、前回アンケートでは中央区、東区が他区に比較すると若干高い傾向であった。

《岸委員》

中央区・東区が高いということは、都市部が高いということで良いか。

《健康づくり推進課》

そのとおり。

《部会長》

調査対象の、年齢区分の地域差についてはどうか。対象の年齢対象毎に人数と区の比較はできているか。

《健康づくり推進課》

そこまでの検証は行っていなし。

《守田委員》

12頁 設問 21 1点目は、HACCPの認証店みたいなものがあるのか。2点目は、追加検討の「食品に関する自主衛生管理(HACCP)」、自主衛生管理とHACCPはイコールではないと思う。もう少し設問を考えた方が良いのではないか。

《食品保健課》

まず、HACCPの認証店に関しては、以前HACCPは、任意に行うものであった。

平成30年に食品衛生法が改正され、HACCPに沿った衛生管理を全ての事業者が実施することが義務化された。義務化は一昨年6月、完全施行された。義務化以前は、熊本市でも認証制度「熊本市版HACCP」を実施し

ていた。国も、総合衛生管理製造過程という、食品衛生法の中で認証制度を作っていた。ただ、義務化になり認証はそぐわないということで、現在では国の認証制度もなくなり熊本市もそれに合わせて、認証制度を廃止した。

食品に関する自主衛生管理、イコールHACCPではないのではということだが、それは、ご指摘のとおり。ただHACCPに沿った衛生管理は、事業者が自ら実施する衛生管理の手法の一つであるため、次期計画の中では、事業の見える化、具体的には行政が取り組んでいる色んな検査や、あるいは事業者が取り組んでいるHACCPに沿った衛生管理をきちんと実施しているということが、市民の方に見えるようになるための施策を展開していきたいと考えている。そのための、バックデータとしてこのアンケートを考えたところではあるが、御指摘のとおり若干わかりづらいところがあるため検討したい。

一つの見える化の例として、飲食店などで作成した HACCP のための衛生管理計画書を料理のメニューと一緒にテーブルの上に乗せていただき、これがうちの衛生管理メニューですよ、お客様に理解していただき安心感を得ていただくようなことを考えている。そのような事業者が取り組んでいただける施策を考えるためのバックデータとなるように検討したい。

《部会長》

例えば、HACCPが義務化されことを市民も知らないとその重要性が市民に伝わらないと思うので、大切さの伝わり方が少し薄くなる。追加検討項目の設問に、「義務化された食品に関する自主衛生管理(HACCP)」とすると21の設問は、変更なしでよいのでは。

《部会長》

12頁 設問15「中食」を「テイクアウト」に変更するとあったが、10頁 設問33(中食・外食も含む)とあるが、ここも変更するのか。

《健康づくり推進課》

国の食育推進計画や調査でも、「中食」という言葉は使われおり、食育の推進からは、中食、外食という言葉は使いたい。デリバリーはテイクアウトではないが、中食には入る。

《三浦勲委員》

中食、外食と書いてしまうと、素人なら家の中で食べるか、家の外で食べるかと間違えてしまうのではないか。

《部会長》

アンケートとは別に、そこに使われている用語説明を、別表で付けてはどうか。検証指標になっている設問もあり安易に設問の変更はできないと思う。一番怖いのは、設問がわかりにくくて、回答を避けてしまうこと。

各設問に注釈をつける場合と、最後に用語集として載せる場合で効果が違うらしい。最後に用語集として載せる方が、全体を見てこういう用語はこういう意味だと確認できる。但し、途中で見てわからないと思ったらそこで回答を打ち切られることもあるので、そこは検討して欲しい。

《部会長》

12頁 設問14 食中毒を起こす細菌・ウイルス(カンピロバクター・ノロウイルス)となると、カンピロバクターをウイルスと思う人もいるかもしれないので、「細菌(カンピロバクター)・ウイルス(ノロウイルス)」が良いのでは。

《食品保健課》

ご指摘のとおり修正したい。

《中村委員》

10頁 中ほど 設問5から7について、14歳以下の子に対して、5,6は設問があるが、33,7に対して設問がないのは何故か。

《健康づくり推進課》

設問5, 6については、1次計画のアンケートの時から、継続的に実施している。33, 7の食事の組み合わせ、野菜摂取については、1次計画の調査から15歳以上の成人に対して継続的に聞いており、14歳以下には聞いていない。組み合わせについては、検証指標の8の基本となっている。

《中村委員》

園児は、朝食をほとんど食べてきている。しかし内容に偏りがある。何を食べてきたかを尋ねると、菓子パンを食べてきたという。

また、主菜は食べるが野菜は嫌いな子が多いと感じる。野菜を食べる取組も大事であり、園児には野菜を食べさせたいと思っている。

《部会長》

10頁 設問7 なぜ野菜を70gが基準で設問しているかの説明が必要ではないか。野菜は1日350g必要であるという説明もあったほうがよいのではないか。

《健康づくり推進課》

食事バランスガイドのイラストも含めてわかりやすいようにしたい。

《部会長》

このアンケートをきっかけにダイレクトに野菜は350g食べないといけないと、市民に啓発できると一石二鳥であると思う。

《山田委員》

アンケート回収率は50%を目指すということだが、恐らくアンケートに回答される方は健康に対する意識が高い方が回答され、あまり意識のない人、つまりは無関心層の方はその回答にも協力をいただけないと思う。出てきた回答は、恐らく健康意識の高い人が作った回答ということになる。それをそのまま全体の市民に当てはめると、若干現実とずれが出てくるのではないか。

それに対する何らかのフィルターをかけるなどの予定はあるのかお聞きしたい。

《健康づくり推進課》

今までのアンケートの分析では恐らくそこまではしてないと思う。そこは委員の御意見も踏まえ、次期の計画策定の参考にさせていただきたい。

《部会長》

市政だよりやホームページ、無料情報誌等でアンケート実施を告知して、回収率を上げる工夫をしてはどうか。何より熊本市がそういう活動を実施しているということを、市民に広く周知したほうがよいと感じる。

《健康づくり推進課》

アンケート発送から一定期間経過後に、回答の無い方には催促状を送付予定である。

LINE等も活用し、アンケート回答の御協力をお願いすることは可能である。

《部会長》

ありとあらゆる手で広報をして、回収率を上げることが大事。そうすると、出てきた結果がどうかなのかという、次のステップに行ける。回答率をあげる工夫は必要。

《岸委員》

先ほど、身長・体重のデータを自己申告でとるのは信憑性に欠けるのではとあったが、国の国民健康・栄養調

査でも基本は計測データであるが、自己申告でも可能となっている。また、自己申告でのデータの妥当性の研究があり、結果として悪くないとの報告もあると記憶している。身長・体重のデータをとっておくことは大事。

《平川委員》

学校での計測や特定健診等でのデータを集めることで、身長・体重は把握できるのではないか。

《健康づくり推進課》

回答者の体格の区分と他の設問との関連性等をこのアンケートの中で確認したいと思っている。

《部会長》

データとして、持っておくことは何より大事。

《三浦勲委員》

食育に関して、高齢者の低栄養やフレイル等で下り坂になり、さらにコロナが追い打ちをかけている。65歳以上のデータについて、非常に興味がある。私達は、ささえりあ等の高齢者支援センター、地域の方々と一緒に、地域で高齢者を支えている。私達もこのデータを地域の食育に反映し、低栄養の予防等の啓発を行いたい。是非私達もデータを活用させていただきたい。

《部会長》

委員の皆様からの意見をもとに修正し、次の会に反映させていただきたい。

これでご了承いただけるか。

【委員了承】